

日本聖公会

横浜教区報

復活節第六主日

ヨハネの手紙一 第四章七〜一一節

# 浜松空襲と村松長老

司祭 バルナバ 吉川智之

2021 5月号

発行所  
日本聖公会  
横浜教区教務所  
〒221-0852 横浜市神奈川区三ツ沢下町14-57  
TEL 045-321-4988  
FAX 045-321-4978  
発行人 入江 修  
1部 55円 千別

昨年NHKの連続テレビ小説は豊橋を舞台とした「エール」が放送されました。劇中では豊橋名産のちくわが多く出てきました。浜松のスーパードでも豊橋産のちくわが売られておりまして私もよくいただいております。劇中では豊橋空襲によって主人公の自宅が焼失するシーンが描かれました。薬師丸ひろ子演じる主人公の母光子は焼け跡となった自宅跡にて讃美歌「うるわしの百合」を歌います。聖公会信徒の光子が歌うこの歌には復活の思いが込められていたと解説されています。私も歌に心を打たれながら感動が湧き上がって来たことを今も思い出すことができます。豊橋の空襲に先立つ前日六

月十七日未明に浜松市は大空襲によって全市が壊滅します。百機のB29が六万五千発の焼夷弾を投下し市の中心部は一面火の海となり千七百人を超える市民が死亡しました。この空襲によって浜松聖アンデレ教会最初の聖堂は焼失しました。浜松に残された教籍簿には「昭和廿年六月十七日深夜米機浜松焼夷空襲の猛火中より教籍簿及聖器救出す当在任長老村松順道」と記されています。当時の村松長老は家族とともに教籍簿と聖具を抱えて火の海から逃れました。浜松駅から歩いて数分の所にあった教会はすでに駐車場と民家となり往時を偲ぶ跡は残されていません。また浜松は二度の火災によって過去の写

真や文書が焼失したため村松長老が何を感じたのかは知る由がありません。しかし、この残された教籍簿には六月十八日に二人の信徒が空襲によってご逝去されたことが記されています。一人は教会敷地裏にて、またもう一人の九歳の少女は浜松駅にて焼死と書かれています。村松長老は夜が明けて教会に戻りますと燃えて倒壊した聖堂裏にて焼死した信徒を発見しました。また空襲後に信徒を訪ね歩く中で少女がすでに戦災死したことを知ったのであります。空襲によって全市が焼けた後にどのように礼拝が続けられたのかは記録が残されていません。ただ教籍簿を読みますと昭和二十二年二月十日に仮聖

堂にて戦後初の洗礼が行われています。焼け野原となった浜松の町中に応急の仮小屋が建てられ戦後の教会が始まったようです。

戦争と戦後の苦勞の中で教会を支えた村松長老は昭和二十三年にご逝去されました。後世の私には残された教籍簿を通してでしかその足跡は知ることができておりません。

教会から浜松駅の方を見るとハーモニカのように屹立するビルが目に入ってきます。今から七五年前に駅前が焼け野原だったと想像することは難しくなっています。ですが、全てを失ったかのように見えた時に信仰によって苦難を乗り越えた先人を思い浮かべることが私たちにはできます。困難の中でも希望を抱き続けた信仰者の終わることのない歩みは今の私たちの教会まで続いているのです。

「神は、独り子を世にお遣わしになりました。その方によって、わたしたちが生きるようになるためです。」

(一ヨハ四章九節)

私たちはキリストによって生きます。主が死を乗り越えて復活の命をお示しになったそこに永遠へと続く希望の道があるのです。

(浜松聖アンデレ教会牧師)



十主教

イグナシオ

三月二日で緊急事態宣言がすべて解除され、教区内のほとんどすべての教会では三月二十八日の復活前主日から公開での礼拝が再開されました。ご復活前の聖週の礼拝が公開となり、更にはご復活日の礼拝が一昨年のご復活日以来二年ぶりに、皆さんが聖堂に会して喜びの礼拝をささげることができたことはほんとうに感謝でした。

一堂に会しての礼拝をささげることができないことで、共同体としてささげられる豊かさを改めて強く感じさせられ、喜びと感謝でいっぱいです。

感染リスクが避けられないため、自宅などで自粛されていた方々も、きつと思いはそれぞれの教会のご復活日の礼拝がささげられていたことでしょうか。私たちにとりましては、礼拝、ことに聖餐式は感謝・賛美の祭りであり、そこで拝領するのは命の糧であることを実感したことで、改めてその大切さを憶えました。

しかしながら、緊急事態宣言の解除前から感染者の数は下げ止まり状態となり、解除後は増加に転じています。ワクチン接種が始まったとはいえ、これから先、まだ楽観視はできません。引き続き感染予防に努め、その一つ一つを丁寧に、そして確実に守りながら、共に礼拝をおささげして参りましょう。

また、その一方で、こうしたコロナ禍が続く中、さまざまな困難を抱えている数多くの人がおられることを憶えて、私たちができること、なすべきことに心を傾け、主のご復活の喜びと希望をすべての人と共に分かち合えますように



(二)復活日夕方に主教館前で